



令和8年度 第1回パラメンタリーディベート交流会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2026年7月18日（土）13:30-17:00

会場：京都市立日吉ヶ丘高校 英語村

参加者：生徒・教員 66名（京都府立嵯峨野高等学校、京都府立鳥羽高等学校、京都市立開建高等学校、京都府立峰山高等学校、京都市立堀川高等学校、京都市立紫野高等学校、京都市立日吉ヶ丘高等学校、見学：京都府立盲学校）

ジャッジ：ゲストジャッジ、PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、東京大学、東北大学大学院・PDA 認定教育ジャッジ、NIC、会津大学

京都市立日吉ヶ丘高校英語村に参加校 7 高校のチームと見学 1 校が集い、即興型英語ディベート京都交流大会 2026 が開催されました。はじめに、PDA 代表理事の中川智皓から「AI やヒューマノイドロボットが進化する現代においても、自分の体で体験し、心から『楽しい』と感じる瞬間は、人間だけが持つ特別な価値です。ぜひ今日の交流大会では、ディベートや他校の皆さんとの交流を存分に楽しんでください。」と応援のメッセージが送られました。次に、京都市立日吉ヶ丘高等学校の太山校長先生より開会のご挨拶をいただきました。「日吉ヶ丘高校の英語村が誕生して今年で 10 周年を迎えました。この交流大会も同じ時期に始まり、10 年間続いてきたこと自体が本当に素晴らしいことです。ぜひ今日のディベートを通じて、互いの考えを理解し合い、交流を楽しんでください。」とエールが送られました。

次に参加校の紹介です。それぞれの学校が明るく元気な挨拶で意気込みを表しました。続いては、POI（Point of Information: ディベート中の質問）の練習やルール of the 最終確認です。確認を終えるといよいよ本番のディベートが幕を開けました。



PDA 代表中川の挨拶



太山校長先生の挨拶



参加校紹介の挨拶



全員で POI の練習

1 ラウンド目の論題は **“High school students should be allowed to use smartphones during class. (高校では授業中のスマートフォン使用を許可すべきである。)”** でした。肯定側からは、スマートフォンは現代の学習環境において有用なツールであり、禁止するのではなく適切なルールを整備して活用すべきだという意見が示されました。辞書機能や調べ学習など、具体的な利用例を挙げながら主張を補強していました。否定側からは、授業中にゲームや SNS に気を取られて集中力が低下すること、通知による注意散漫、対面でのコミュニケーションの減少など、学習への悪影響が指摘されました。また、学校からタブレット端末が貸与されている現状を踏まえ、「タブレットは許可されるのにスマホはなぜ禁止なのか」という点についても議論が行われました。スピーチでは高校生らしい具体例が多く紹介され、論理の説得力を高めていました。POI による質疑応答も積極的で、即興で反論を組み立てながら主張を強化する高度な展開が見られました。全体として、論点が整理された質の高いディベートとなっていました。



スピーチの様子（左：開建 B vs 紫野 1、右：日吉ヶ丘 B vs 開建 A）



ディベート後の意見交換：鳥羽 C vs 峰山(Mineko)

続く 2 ラウンド目の論題は **“Social media accounts should require real names. (SNS は実名制にすべきである)”** でした。肯定側からは、SNS 上でのいじめや誹謗中傷が深刻化していること、匿名性が犯罪行為や悪質な書き込みを助長していることが指摘されました。実名制により利用者の責任意識が高まり、いじめや犯罪の抑止につながるという主張が展開されました。一方、否定側からは、SNS が自由な情報発信の場として機能している現状を踏まえ、実名制は表現の自由を大きく制限する可能性があるという意見が示されました。また、サイバー攻撃や情報漏えいのリスクが高まる中で、実名を公開することが個人の安全を脅かすという懸念も述べられました。高校生らしい視点と現代的な問題意識が反映され、双方が多角的に論点を提示した密度の高い議論となっていました。



スピーチの様子と試合後の握手の様子：嵯峨野 C VS 峰山 River

2 回の実践ラウンドを終えると、ジャッジによる「もう一度この生徒のスピーチを聞きたい」という推薦に基づいて選出された生徒によるエキシビションディベートが行われました。各学校から選出された合計 7 名が壇上に呼ばれ、会場全体が期待感に包まれました。論題は **“Japan should accept more foreign tourists. (日本は外国人旅行客をもっと受け入れるべきである。)”** でした。

議論では、京都特有のオーバーツーリズムやごみ問題、自然環境への負荷といった課題が否定側から示される一方、インバウンドによる経済効果や地域活性化、日本人観光客も負荷をかけている中で外国人のみを制限することへの不公平感など、肯定側からも多角的な論点が提示されました。壇上に立った 7 名のディベーターは、多くのチームメイトや他校の生徒、教員が見守る緊張感の中でも、自分の役割を理解し、自信をもってスピーチをやり切りました。POI による質疑応答も行われ、即興で論理を深める場面が見られました。観客として参加した生徒たちも熱心に議論を聞き、勝敗を判断して挙手で投票するなど、会場全体が一体となってディベートに参加していました。

ゲストジャッジの久留宮先生からは、具体例が豊富で説得力のある素晴らしいディベートだったとの講評がありました。さらに、外国人旅行客の影響を「有名観光地」と「過疎地域」に分けて分析することで、より深い論理展開が可能になるとの示唆があり、観光政策を考えるうえで地域ごとの課題を踏まえた議論の重要性が改めて示されました。今回のエキシビションディベートは、代表者のスピーチ力だけでなく、観客の参加姿勢や会場全体の集中度も含め、非常に密度の高い学びの場となりました。



エキシビションスピーチ（堀川高校生徒）



エキシビションディベートの様子



全生徒ジャッジによる挙手投票の様子

閉会式では表彰式の後、京都府立北稜高校の竹林祥子校長先生よりご挨拶をいただきました。「短時間で考えをまとめ、論理的で明快なスピーチができていたことが素晴らしかった。今後もディベートを通じて相互理解を深めてほしいし、そのためにもますます英語の学習に励んでください。」と、参加生徒へ温かい激励のメッセージが送られました。



竹林祥子校長先生のご挨拶

【表彰】

〈エキシビジョンディベーター賞〉

・ PM	峰山高校	_____	さん
・ LO	紫野高校	_____	さん
・ MG	堀川高校	_____	さん
・ MO1	嵯峨野高校	_____	さん
・ MO2	開建高校	_____	さん
・ LOR	日吉ヶ丘高校	_____	さん
・ PMR	鳥羽高校	_____	さん



〈ベストディベーター賞〉★は2回選ばれた生徒

_____さん (鳥羽 C) ★	_____さん (紫野チーム 2)
_____さん (嵯峨野 D) ★	_____さん (鳥羽 B)
_____さん (日吉ヶ丘 B)	_____さん (鳥羽 B)
_____さん (開建高校 A チーム)	_____さん (堀川高等学校)
_____さん (峰山 River)	_____さん (嵯峨野 D)
_____さん (嵯峨野 A)	_____さん (嵯峨野 D)
_____さん (嵯峨野 A)	_____さん (嵯峨野 C)
_____さん (開建高校 B チーム)	_____さん (鳥羽 A)
_____さん (紫野チーム 1)	_____さん (鳥羽 A)
_____さん (嵯峨野 B)	



〈ベスト POI 賞〉★は2回選ばれた生徒

_____さん (嵯峨野 B) ★
_____さん (鳥羽 A) ★
_____さん (鳥羽 C)
_____さん (日吉ヶ丘 B)
_____さん (開建高校 A チーム)
_____さん (開建高校 A チーム)
_____さん (峰山 River)
_____さん (嵯峨野 A)
_____さん (紫野チーム 2)
_____さん (堀川高等学校)
_____さん (堀川高等学校)



〈チーム賞〉

- 1 位 鳥羽高校 A チーム
- 2 位 嵯峨野高校 A チーム
- 3 位 嵯峨野高校 D チーム
- 4 位 鳥羽高校 C チーム
- 5 位 嵯峨野高校 B チーム



1 位 鳥羽高校 A



2 位 嵯峨野高校 A



3 位 嵯峨野高校 D



交流大会終了後の全体写真

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・自分の思うことを言葉で伝えることが楽しかったです。（開建）
- ・普段はあまり関わることのできない他校の人たちと英語でディベートを通して話せるのが楽しかったです。貴重な体験で学びも多くとても楽しめました。（紫野）
- ・色々な学校とディベートしてとても良い刺激になりました。（鳥羽）
- ・正直、あまり自信がなかったし、緊張して楽しめないかなと思っていたが、交流も含めて思いのほか楽しかったです。ジャッジしていただき、ありがとうございました。的確なアドバイスのおかげでさらに成長できそうです。（日吉ヶ丘）
- ・色んな人と話せて楽しかったです。詳しく教えて下さりありがとうございました。（堀川）
- ・モーションが時事的なもので、自分たちのときもエキシビジョンのときも自分ごととして考えることができ面白かった。とてもいい経験になりました。（開建）
- ・初めてのディベート交流会を通していろんな意見に触れたり考えたりすることの大切さを学びました。また、単語の意味を一つずつ考えるということがとても印象に残りました。ただ意見を考えるのではなく意味を考えどんどん考えを深めることを大切にしようと思いました。（鳥羽）
- ・他校とディベート今まで以上に深い学びが出来ました。自分に足りないところを的確にアドバイスして頂き、ありがとうございました。今日の大会で、より自分を磨くための改善点が分かりました。（鳥羽）
- ・他校の生徒さんと論題を議論し合って、様々な視点で交流でき、楽しかったです。このような素晴らしい機会に参加でき、これからたくさん英語でディベートしたいと思いました。貴重な方々のコメントやアドバイスを頂いて自分に必要な力や伸ばすことができる点を客観的に理解することができました。これまでにない初めての感覚で、楽しさと嬉しさに満ち溢れました。（鳥羽）
- ・未練が残る部分もありつつ、これがまたバネになると思うと参加してよかったと思います。（開建）
- ・1 ラウンドごとにフィードバックを受けることができ、充実したディベートができました。（紫野）
- ・他校の高校生とディベートができてとても楽しかったです。ジャッジの先生方からのアドバイスが的確で今日だけでも改善することができました。負けてしまったのは悔しいですが、それよりもディベートの楽しさを改めて感じられるととてもいい機会になりました。運営の方々やこの大会に関わってくださった方々に感謝したいです！（嵯峨野）
- ・初めてディベートを体験してみて周りの人のレベルに圧倒されました。それでも、今ある力を最大限に振り絞って英語ディベートを楽しむことは心からできたと思います。今回の悔しさと経験をこれからの活かしたいです。優しい言葉でアドバイスをくださったり、的確なジャッジをありがとうございました。（日吉ヶ丘）